

令和3（2021）年度 F F J 環境調査について

日本学校農業クラブ連盟
環境調査評価委員会

1 令和3年度の環境調査について

(1) 調査テーマと調査対象種

“タンポポ調査”～第2弾～「在来種を探そう」

○調査対象種：【在来種】シロバナタンポポ、黄花系在来種（※）

【外来種】セイヨウタンポポ、アカミタンポポ、在来種と外来種の雑種

※今回の調査では黄花系在来種の細かな区別は行わず、全て「カントウタンポポ」とカウントします

(2) 目的

環境調査の主旨とこれまでの歩みを尊重し、調査初代のテーマであるタンポポの調査に再度取り組むことで、平成12（2000）年から今日までの間にどれほど外来種・在来種の分布や環境が変化してきたかを探求することが本調査の最大の目的です。そのため、令和3年度も継続してタンポポの分布調査をテーマとし、全国の分布図が完成することを目標とします。

また、本調査は全国49連盟・約8万人の農業クラブ員ひとりひとりが比較的簡単に楽しみながら取り組める活動です。身近な植物であるタンポポにも多くの種類があり、在来種や外来種（雑種を含む）の特性やその見分け方があることなどに興味をもたせ、主体的な調査活動を通してクラブ員の科学性や環境問題について考える力などをはぐくむことを期待するものです。

(3) 調査期間：令和3（2021）年2月5日（金）から 8月5日（木）

《注》在来種の開花時期は一般的に3～5月であることから、調査の実施が6月以降に集中することはできるだけ避け、5月中までの調査実施についても積極的にお願いいたします。

(4) 日連提出期限：令和3年11月12日（金）必着

(5) 基本方針

①タンポポの全国分布図の完成を目標とする。

②外来種であるセイヨウタンポポとそれらの雑種がほぼ全国的に広まっていることが推測されており、在来種および外来種（雑種含む）と判断できるものが全国でどれだけ発見できるかを確認する。

③正確に種別の判断をしてもらえるよう、わかりやすい種類の見分け方について周知徹底を図る。

④過去の調査データと比較検証し、在来種および外来種（雑種を含む）の分布の推移を確認する。

⑤分布状況の集計や表示に関しては、環境省の運営する「いきものログ」を活用する。

(6) 具体的な調査・集計方法について（概要）

①各種必要書類を日連HPからダウンロードし、各単位クラブおよび都道府県連盟において令和3年2月5日（金）から利用してください。

②昨年度に引き続き「Geocode Viewer」（<http://www.geosense.co.jp/map/tool/geoconverter.php>）を用い、3次メッシュコードを求めて「個人調査票2021」、「環境調査集計表2021」に記入してください。

③例年と同様、各都道府県連盟事務局は単位クラブの集計結果をまとめ、電子メールまたは電子記録媒体（CD-R等）に保存し、日連事務局へご提出ください。

④詳細は、日連HPからダウンロード出来る「令和3（2021）年度 環境調査の手引き」をご参照ください。